



那須神社 楼門 [栃木県指定文化財]

龍眼は何を睨むのか！

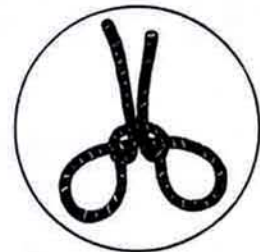
会報 むすび

第 13 号

・発行所
栃木県青年神職むすび会
会報編集委員会

・発行人
若松豊明

・印刷所
(株)松井ピ・テ・オ印刷
昭和63年10月1日発行



目次

会長挨拶	2
若い力	3
むすび会創立二十五周年記念	4
会員神社紹介	6
その一、「天満宮例祭」	
その二、「報徳二宮神社」	
その三、「羽黒山神社」	
昭和六十二年度事業報告	9
承継登記	10
新入会員紹介	11
会員結婚	13



御挨拶

栃木県青年神職むすび会々々長

若松豊明

虫の声に秋の訪れを感じるころとなりましたが皆様におかれましては、益々御健勝にて御活躍のことと存じます。さて我々執行部が

昨年四月に就任いたしましたより月日の流れは早いもので早くも一年半が経過しようとしております。この間、本会の諸事業も順調に進み、これも偏に諸先輩を始め会員各位の御支援、御協力の賜物と深く感謝申し上げます。殊に昨年度は、本会創立二十五周年の年にあたり記念行事を開催すべく斎藤副会長を中心に実行委員会を組織し

実行委員の方々には、お忙しい中何回となく会議をもつていただき諸準備を進めてまいりました。その後、三月十六日、創立二十五周年記念大会を挙行し、一都六県の神青会同志の皆様、県内各地の諸先輩始め会員、百余名の御出席をいただき、和やかに盛会裡に催す

ことができました。慈に有難く厚く御礼を申し上げます。

本年度の事業は、特に新しい活動はありませんが正遷宮を五年後にひかえた第六十一回神宮式年遷宮の奉賛啓蒙につきましては、真剣に取り組んでゆかなければならないと存じます。当会では一昨年

一日神領民としてお木曳き行事に参加奉仕してまいりましたし、一般の方々へは、大麻頒布増体運動を通じ広報、啓蒙活動にもつとめてまいりました。

式年遷宮は、申すまでもなく二十年に一度、調度品をととのえ、御殿、御敷地までも新しくして大御神に新殿へお遷り願う儀式であり、遷宮祭は、古来皇家第一の重事、神宮無双の大宮といわれ、神宮最大の規模をそなえた祭典であります。従来、式年遷宮は陛下の大御心を奉じて国家がとり進め

を挙げての祭典でありましたが、神道指令により、国家と神宮の關係が断ちきられ、戦後二回の御遷宮は、一宗教法人が思召を体して遂行するきわめて変則的な姿となり、国家が遷宮の重儀にあたるという伝統が歪められたまま齋行されてまいりました。

今後我々は日本のよみがえりを願う御遷宮、この日本の美しき伝統を正しく子孫に伝えるため、奉賛の誠を捧げ啓蒙につとめる奉賛会県本部、県神社庁に協力しながら運動を進めてまいりたいと存じます。その他の事業につきましてもその内容の充実を図るとともに一人でも多くの会員が参加できるように新たな事業も考える時期であると存じます。役員一同力をあわせ頑張つてまいりますので会員皆様の絶大な御協力をお願い申し上げます。

コンピューターを駆使した最新の技術で情報化時代に対応!!

株式会社 松井ピ・テ・オ印刷

本社 宇都宮市平出町4287-7 ☎0286-62-2511(代)

営業所 東京・越谷・那須北 工場 本社工場・第2工場(平出)・第3工場(黒羽)

『若い力』

栃木県神社庁参事

(むすび会・監事)

長倉 樹

むすび会も本年で創立二十五周年を迎えた。現在九代目会長の若松豊明氏を中心に先輩方の築き上げた歴史をふまえ精力的に活動中で有る。

私自身も昭和六十二年二月長年奉仕致しております明治神宮を退職し、栃木県神社庁に奉仕させて戴くことになった。そして年齢は四十才に近いが、むすび会々員の資格がまだ有るといふことで、この会の監事を仰せつかり、種々の活動にも参加させていただいている。若い神職の集まりであるこの会に出席出来ることは、私の楽しみのも一つでもある。

今度むすび会の活動に参加した中で、感じたこと意見等があれば忌憚なく率直に述べてみてくれとお言葉も頂戴した。会に参加して一年程度しか経っておらず、十

方の文章の中にもむすび会と言う名に込めた熱き心、結束の力強さがひしひしと伝わり、感激とともに読ませていただき、この会に参加出来た喜びを感じた。

分な理解もしていない今日、意見など述べられる立場でもない。又、学者でもないので難かしいことも書けないが、お言葉に甘え、むすび会について感じたことをアットランダムに記させて戴く。

先ず「むすび会」という名称についてである。誰れもが最初に感じるのだと思うが、私もこの会の名前を初めて聞いた時奇異に感じた。そこで辞書を調べてみたところ、「むすびとは産霊、奈良時代は「ムスヒ」と清音、「ムス」は産・生の意、「ヒ」は霊、天地万物を生み成す霊妙な神霊」と言うことが基本的な意味であり、他にも奥の深い意味あいのあるすばらしい言葉であった。たまたま創立二十五周年を迎えた年でもあり、

諸先輩がむすび会に寄せた文章等を見る機会に恵まれた。その先輩

次に会の年間活動についてである。

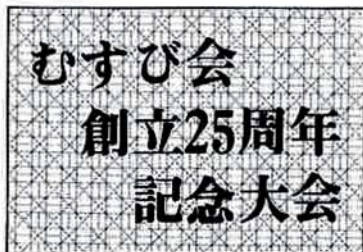
むすび会では夏期研修、植樹、神宮大麻頒布の他種々の年間活動を行なっている。私自身は仕事の都合も有り残念ながら一部の活動にしか参加出来なかった。その中で神社庁周辺の家庭への神宮大麻頒布活動に参加出来たことは貴重な体験であった。自己研鑽が目的の一つではあるが、寒風の中一軒一軒を廻り、断わられてもめげることなく次々と頒布活動をして歩く会員等の姿を見ると、理屈でない神道教化の原点を見る思いであった。ただ反面現代の社会がいかに神道を軽く扱っているかも感じ、このような状態を何とかする事が神職として重要なテーマでも有ると感じた。

次にむすび会そのものについてである。年々歳々花相似、歳々年々人不同。時が経過するにしたがいむすび会の目的は変わらないうが、会員の多くが入れ変わり質もかわって来ている。最近あちこちの組

織でサロン化、クラブ化を懸念し、組織の活性化が叫ばれている。むすび会もどうやら諸先輩方より見るとその中の一つであるらしい。しかし、私個人はむすび会については、あまり心配することは無いと考える。確かに現在のところ会員の減少、これに伴う財政的問題等が有る。又、活動もそれほど派手に行なっていない。だが、それで現在のところ良いのではないかと思う。「会」が活性化を失う時というのは、その会の肥大化、官僚化、マンネリ化から起って来る。この視点よりみるとむすび会に当て嵌めることはあまり無い。かえって良好な状態にあるように見える。

我々むすび会員が現在すべきことは、諸先輩方が行なって来た活動に再度新しい流れを作って行くことであると思う。その為に、種々の工夫、努力をすべきである。それとともに自己研鑽を重ね力を蓄えておくべきである。こつこつと努力して行くことが今後のむすび会を大きく育てることにもなり、又むすび会だけでなく神社界の為に大きな力となると私は考えている。

我が栃木県青年神職むすび会創立二十五周年記念大会が、去る昭和六十三年三月三日十六日、宇都宮二荒山神社社会館に於いて多数の参加者により開催された。



二荒山に有志集い むすびの心をいつまでも

大会に先立ち、神社庁神殿にて大会関係者の参列により、むすび会会員の奉仕による奉告祭が斎行された。また式典後、本県出身の作曲家船村徹先生を招き『我ふるさとに歌ありて』と題して、記念講演も行なわれた。

会場内には来賓として、神社庁横瀬副庁長、塚本総代連合会長、むすび会OB、北山全国神青協会長をお迎えし、会員合せ約百名が参加した。

初めに斎藤副会長の挨拶により

式典が開催され、続いて、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和と続き、斎藤副会長が、二十周年以降の活動概要報告として、毎年の行事である山本町の大麻頒布、夏期研修会、国旗掲揚運動や、五十九年度の本県で開催された神青協野球大会、同年に念願の会旗作成、六十二年度の鬼怒川での全国中央研修会等の簡単な概要報告があった。

つぎに、むすび会若松会長は挨拶の中で、「戦後、神道指令の弾

圧の中、諸先輩等は日本民族の精神基盤である神社神道の護持、国家再建に努力され、精神的にまだ混乱しており見失われた文化伝統などが再認識される中、神社界に有っては、各県に神道青年会、著名な神社には氏子青年会が結成され、本県に於いても若い神職が神界の将来を思い強い信念と情熱により苦難の末結成されたのが、今日のむすび会と聞いています。以来、むすびの心を基盤に諸先輩等の努力によって、数々の事業が



聖寿の万歳

推進され着実に成果を残して来ました。本日、二十五周年を迎え、諸先輩たちの功績を思うと身の引締る思いです。我々はこの吉年をさらに飛躍の年として、心新たにすする所存です。今後の活動につきましては、発会当初の目的、会員相互の研鑽、親睦を図るのは素より、社会福祉、教化活動等、外には靖国、北方領土問題など早急に

取り組むべき問題等が山積されており、我々は先輩等の歩んで来た苦難の足跡を常に念頭に置いて、本会設立の情熱を再認識し斯界の先兵として、青年神職の若さと行動

力を以て根強い運動を展開します。」と固い誓いを述べた。

さらに来賓を代表して、横瀬副
庁長、塚本総代連合会長、北山全
国神青協会長の祝辞を賜わり、ま
ず、横瀬副庁長は、「県内外の御
来賓のみなさまをお迎えし、この
大会が開催されますことは正にむ
すびの結集であろうとお慶び申し
上げます。」と挨拶された後、初代
会長として、発会当初を懐かしく
話し、「今後の会員の活躍に、出発
の者として特に期待をしております。」と力強く挨拶された。



船村徹先生による記念講演

続いて塚本総代連合会長は「ど
うか今後むすび会が日本の精神の
中核となります様に、親睦を一層

深め、一つの目標に向かってまい進
する事を特にお願い致します。」
と挨拶された。

次に、全国神青協会会長は祝は祝
辞の中で、「どうか会員の皆様も
発会当時の先輩の苦勞を再認識し
明日の神社界、延いては日本の為
に力強い活動をして戴きたいと思
います。」と励ましの言葉をいた
だきました。

最後に御来賓の紹介、祝電披露
を行ない長倉会員の閉会の言葉で
式典の幕は閉じた。

続いて、船村徹先生により記念
講演が行なわれ、先生は、少年期
での音楽との出会いや、戦後間も
なくに上京した音楽大学での苦勞
またその中で知り会った、あの、
「別れの一本杉」の協同成作者、
故高野君男氏との出会いなどをユ
ーモア混え話され、中でも先生は
「青春時代色々なことがありまし
たが、私は栃木県に生まれて本当
に助けられたと思う事は、それは
独特の方言です。私の作曲した全
てにそれが生きてます。ふるさと
は歌そのものです。」と、独特の
口調でいかにも先生らしい、心暖
まる話が聞けた。

講演後、引き続き別会場にて、



25周年記念奉告祭

記念祝賀会が開催され、大盛況の
内につつがなく幕は閉じた。
我々は、皆様方のお言葉を心の
糧として、若い情熱を持って明日
の社会を守っていきたくと思いま
す。ここに集いし皆様の弥栄を心
からお祈り申し上げます。

Just
25

神社授与品・記念品奉製

樹脂製・金属製御守・金欄錦御守・木札・絵馬御守
御神矢・ステッカー・紙札御守・全自動みくじ機・其の他各種御守

新日本工芸(株)

※御一報次第カタログ御送り致します
※御希望より、いか様にも御調達します

本 社 〒310 水戸市南町2丁目4番35号
営業本部 〒311-41 水戸市河田町丹下3891
TEL 0292(51)0997(代)
FAX 0292(52)8288

神具・御宮・三方
堤灯・お礼・お守

(有)滝澤奉製所

工 場 河内郡上三川町大字笹塚原4010
TEL 0285 (56) 5 2 1 2
営業所 真岡市長田432-8
TEL 02858 (4) 1 5 3 1

員 神社・祭礼紹介

その一

天満宮例大祭

(御神馬奉納神事)

越口 正一

当天満宮は、鎌倉時代(貞永二年)の創立であります。永禄十年に藤原鎌足公の子孫、多劫五郎宗朝が、修復を加えて水沼郷(現在の大字西水沼、東水沼)の総鎮守となった。

古くは、山城国北野を象りて、北野原と号し北原天神と称したが、明治維新より天満宮と社名を改称した。

菅原道真公、大宰府へ左遷の時、豊前国水沼村で船が動かなくなつた時、宇佐に祈念し博多の津に着き大船戸に上られたという。

この由緒を移して当地区の村名を水沼と称し、字を船戸と称することになったと伝えられている。さて当宮には、古くから例大祭



(毎年十一月二十四日、二十五日)に、神輿渡御と御神馬奉納神事が、今も昔ながらに、行なわれていま

二十四日は午後三時、出御祭を執行して神輿を担ぎ出し、当番地区の当屋(御旅所)にて、前夜祭(宵宮祭)の祭典が取り行なわれます。

翌日は、午前九時より当屋にて、還御祭の祭典を執行いたします。

続いて、当番組の氏子達の中から神輿渡御神事の先導として、露払いに天狗、そして脇役には、おかめ様、ひよっとこをしながら、お面、装束を身に付け、次に御幣を背負った御神馬、真禰、当屋の主人、神輿、宮司、総代、氏子の順で行列を組み出発します。

途中、辻々で、ひよっとこが俵の中に前持って用意した、紅白の餅を撒き配りながら賑々しく神社に進みます。

神社に到着すると、火花を合図に鳥居の前で行列を正して拜殿前まで進み、御神馬が社殿を速足で、三度廻って奉納儀式を授け神事は終了し続いて祭典を執行します。

このあと地元の太々神楽を奉納、終日地域あげて賑かに収穫を祝います。

尚、御神馬奉納は芳賀郡市内で唯一の行事でありますので今後も続けていく事しております。

御装束・祭典用具・結婚式場設備・
舞楽装束の御用命は

宮内庁
栃木県神社庁

御用達 **森装束店**

〒160 東京都新宿区西新宿4丁目7番21号
電話 東京 03 (376) 4631番

御結婚式場設計設備承ります。



神社授與品
記念品奉製

株式会社長谷川製作所

代表取締役 長谷川和夫

東京都北区堀船三丁目二〇番十三号

電話 東京 03 (912) 6161番

員 社 神 社 ・ 祭 礼 紹 介

その二

報徳二宮神社

武内 節史

報徳二宮神社の御祭神は、主神に二宮尊徳命、配神にその嗣子二宮尊行命、高弟の富田高髪命を祀っています。

二宮尊徳翁は、江戸時代の天明七年(一七八七年)神奈川県小田原市栢山かしらに生れましたが、続く大飢饉に加へ酒匂川の大洪水に田畑を失い、十四才で父に、十六才で母に死別する悲運に遭い、兄弟と離散する最悪の困窮に陥りました。この境遇の中で、不屈の精神と刻苦精励によって二十四才で独力で一家を再興しました。この努力の間に創案した報徳の生活様式によって、小田原藩家老服部家の復興、下野国桜町領(現二宮町)の復興などにより、興国安民の報徳仕法

が全国的に浸透しました。

老中水野忠邦に幕臣として登用され、晩年の嘉永六年(一八五三年)日光御神領八十九ヶ村の荒地を開発復興する仕法に尽力しましたが、安政三年(一八五六年)十月二十日(新曆十一月十七日)享年七十才で、今市報徳役所に於て逝去されました。星頭山如来寺に於て葬儀が営なまれ、その墓地に埋葬されました。

明治になって、多大の恩恵に浴し、遺徳を敬仰する地元及び関係のある人々が、全国唯一の終焉の地であるこの霊地に神社を創建する議が起り、明治三十一年に報徳二宮神社として創建されました。神社の本殿裏に、県史蹟二宮尊

徳翁の墳墓、その横に尊徳翁の報徳仕法の遺書写本二千五百冊及び遺品を展示した報徳文庫(宝物館)があります。

例大祭は、尊徳翁の命日十一月十七日に執り行なわれ、尊徳翁の曾孫二宮四郎氏が毎年参拝し、静



岡県掛川市の大日本報徳社を始め県外県内及び地元崇敬者が多数参列致します。

また、本年昭和六十三年は、二宮尊行翁生誕二百年記念大祭が例大祭に併せて執り行なわれました。記念事業としては、史蹟二宮尊徳翁墓の環境整備を行ない、墓の廻りの美化に務め、又、神楽殿改修工事を行ない、二階で催物を行い一階を休憩所として利用できるようにしました。

敬神崇敬と真心のご奉仕!!

- 出張祭典器具・調度品
- 各種三宝・手水具
- 五色・旗・幕・壁代・御簾
- 屋内・外各種神殿
- 狩衣・袴他一式

神社庁御用達

留 神 圓

東京都調布市菊野台1-11-1
TEL 0424-88-8 8 8 6(代)
FAX 0424-85-3 0 1 0

神社仏閣飾金具・屋根葺工事

有限会社 鈴木鋳金具工芸社

取締役社長 鈴木 重信

〒321-14 本社 栃木県日光市東和町57の1
TEL (0288) 54-2383
作業所 栃木県日光市東和町62の1
TEL (0288) 53-1121
FAX 0288 (54) -3263

員
神社・祭礼紹介

その三

羽黒山神社

(梵天まつり)

阿部 康夫



羽黒山神社は、宇都宮の北方に有り宇迦魂大神を主祭神と奉斎し鎮座する神社です。
当社は、「梵天まつり」の神社

として広く知られて居ります。梵天まつりは毎年十一月二十三日の例祭に行われます。梵天を奉納し五穀豊穡や天候の無事・無病息災等感謝・祈願する風俗は、県内各地に多くみられます。当社の梵天まつりは江戸時代の中頃に収穫を感謝する祭事として始められたもので、約三百年間行われて来た伝統ある祭りです。

奉納する梵天は、その年に出来た根付の孟宗竹三本を藁縄で結んで一本の竿にし、その先端に房と御幣束を付けて作製する、かつては麻・干瓢・松のキャンナ引き・和紙等の郷土特産物で房が作られたが、今日ではカラフルな色とりどりのテープ等で作られる様になり

ました。この梵天の奉製は奉納者達が約一ヶ月前から準備に取りかかり、最後に短い縄を何本も取りつけていよいよ完成。揃いの半纏・鉢巻・白足袋を身につけた若者三十人余が、その縄をシツカリと握り「ワッショイワッショイ」の掛け声も勇しく目抜き通りを練り歩きます。出発は奉納者の出身地域を先づ練り歩き、後に羽黒山中を表参道迄進んで進み、中には遠く十キロ以上も走って来て参道に到着する奉納梵天もあるのです。参道を行きつ戻りつして参道を進みますといよいよ山頂の神社に向う鳥居をくぐり、梵天の奉納となります。元気の良い若者達が梵天を大地に叩きつけながら威勢良く神社を目指します、急な坂道を登り神社の社殿の横に梵天を納めると、参拝者には「グシモチ」が撒かれ、祭も最高潮の内に終了致します。

現在では既に十四〜十五本の梵天が奉納されて居ります。この梵天は、各地区・各事業所と言った各種団体による奉納と様々であり、それぞれに結束を表わし友和のもと、ほのぼのとした神意を伺い知る事が出来ます。

神社仏閣御用達

神符・守札・木札・ビニール守・錦守
交通安全・御守袋・その他各種御札
奉書紙・書道半紙・画仙紙・各種和紙・謹製

創業100年 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 力男

〒409-36 山梨県西八代郡市川大門町1780-1
電話0552 (72) 0514番



神社・仏閣用御守の企画・製作
各種記念品の企画・製作販売

株式会社 阿部

本社・工場 栃木県下都賀郡藤岡町1243
☎ 349-13 TEL (0282) 62-2023・2012
FAX 電話 (0282) 62-2061
東京事務所 東京都台東区駒形1丁目12番10
(茜日伸ハイッ 412号)

昭和六十二年

むすび会事業報告

四月 十三日	役員会	於 東照宮研修会館	九名
二十二日	神青協定例総会	於 神社本庁・若松・寺内	
二十八日	会員神社祭典奉仕	於 栃木県護国神社 中山・小林	
三十日	幹事会	於 宇・二荒山神社	十四名
三十日	定例総会	於 宇・二荒山神社	十七名
五月二十一日	とちの実学園 神棚祭並慰問	於 佐野とちのみ学園	若松
二十二日	幹事会	於 宇・二荒山神社	十三名
六月 五日	関東地区会長会	於 神社本庁	
十六日	OB・会員 ゴルフ懇親会	於 ニューセントラルGC 上野(園)・稲	二十名
二十二日	植樹奉仕	於 県南支部六社	十五名
二十二日	柳田前会長慰労会	於 宇・うおのぶ	十七名
二十五	一都七県神社庁 親善野球大会	於 千葉県成田市	
二十六日			
七月 二	神奈川県神青協創立	於 神奈川県箱根 若松・斉藤(芳)	
三日	三十五周年大会	於 寺内・上野(園)・加藤	
九日	幹事会	於 宇・二荒山神社	十名
二十日	役員会	於 宇・二荒山神社	七名
八月 十日	会員家族親睦会	於 那須方面	二十一名
二十一日	神繩国体成功祈願祭	於 沖繩県 寺内・上野(園)・菱沼	
二十三日			

九月 四	夏期研修会	於 日・二荒山神社	十三名
五日			
八日	氏青野球大会	於 黒磯市営球場	九名
十日	関東地区会長会	於 山梨県 若松・上野(園)・稲	
十一日			
十六	神青協夏期セミナー	於 京都府	若松
十九日			
二十四	関東地区総会	於 山梨県	十一名
二十五日			
十月 七日	幹事会	於 宇・二荒山神社	八名
九日	国旗掲揚運動	於 県南支部 若松・小島・菱沼	
十九日	氏青ゴルフ大会	於 栃木CC	七名
九月 九日	会員神社祭典奉仕	於 真岡大前神社	石川
二十六日	関東地区会長会	於 神社本庁	上野(園)・稲
十一月 二日	忘年会	於 神社庁(団地)	十名
二日			
十八日	幹事会	於 川治温泉	二十二名
十二月 十八日			
一月 十二日	幹事会	於 宇・二荒山神社	十名
二月 十二日	神青協中央研修会	於 宇・二荒山神社	十四名
二月二十三			
二十四日			
三月 二日	幹事会	於 岐阜県長良 斉藤(芳)・上野(園)	
二日			
十六日	むすび会創立 二十五周年記念大会	於 宇・二荒山神社 稲・加藤・大野	十六名 約百名

神社実務 承継登記

栃木県神社庁

岩松雅雄

「承継登記」この耳馳れない言葉をご存じでしょうか、一度神社庁報で知らせた事がありますが大事な事であり、忘れがちなので注意してほしい。最近財産処分等の承認書の中で数多く見られる、即ち土地の冗却、交換には必ず土地騰本の添付が義務づけられている。この騰本を見るとこの承継登記が為されていないものが多い。

昭和二十六年四月三日現在の宗
教法人法が公布された。その中で
旧国家管理であった神社から宗教
法人としての神社に権利義務を承
継すると明示されているのでその
手続が必要なのである。この手続
を怠っている。

これは登記簿の騰本を採れば、
受付日付や、「私社〇〇神社」な
どと社格を通した記載を見ること
により容易に伴別することが出来
る。これらは旧法人が解散してい
るので例え新旧神社名に変更がな
くとも新法人へ所有権を移転する
という形式的手続をとらなければ
才三者に対して新法人としては対

抗出来ない、勿論売冗の契約も出
来ないし、売却も出来ない。

その為に承継登記を行う必要が
ある。もしこの手続を行はな
いで放置しておけば、道路計画など
で売却処分をする法的処理が出来
ない。又長い間そのままにしてお
くとその土地の帰属先が宙に浮い
て複雑な問題を惹起しないとも限
らない。承継手続には新法人に移
行したことの証明書を要求される
ことがある。登記所に聞いて対処
されたい。

神社を代表役員・宮司として受
理するには重要な財産管理の一つ
で充分注意を要する。

神道は宗教の中でも国民の道徳
基準を支え、特に青少年の道徳意
識の向上に果たす役割は大きく、
所轄官庁から財産処分等について
許可を必要としない特別の恩典を
得ている。これは宗教法人は非違
行為をしないと云う性善説から生
まれており、非課税措置等もその
あらわれである。

これらの恩典におごることなく
神職としては正しい神社運営に心
掛け、国民の信頼に報えるべきと
考える。

(昭和58年11月1日「月刊若木」
「承継登記は済んでいますか」よ
り転載)



京のおまもり

京都奉製株式会社

本社 京都市上京区今小路通御前通西入上ル
TEL (075) 463-5500 (代)
東京営業所 東京都文京区湯島3丁目28-2
湯島永谷マンション 713号
TEL (03) 835-0713

社頭授与品専門奉製所

(主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁)

常陸神宝(株)

〒310 水戸市根本町1丁目53-4
☎ (水戸) 0292 (27) 0511(代)

新入会員紹介

昭和六十二年入会

氏名 長倉 樹

住所、宇都宮山本町

三〇六一六

奉務先、栃木県神社庁

昭和二十四年 九月 七日生

氏名 柴田 美晴

住所、日光市山内

二三〇一一

奉務先、日光二荒山神社

昭和二十四年十二月二十四日生

氏名 田原 経三

住所、日光市中宮祠二四八四

奉務先、日光二荒神社

昭和三十八年 七月 二十日生

〔昭和六十二年入会〕

氏名 江部 幸男

住所、宇都宮市平出三八四八

奉務先、平出雷電神社

昭和三十四年十二月 五日生

氏名 阿部 修一

住所、鹿沼市草久三〇二七

奉務先、古峰神社

昭和三十五年十二月 十八日生

氏名 斉藤 禎一

住所、鹿沼市草久三〇二七

奉務先、古峰神社

昭和三十四年 九月二十二日生

〔昭和六十三年入会〕

氏名 戸部 広之

住所、鹿沼市草久三〇二七

奉務先、古峰神社

昭和三十五年 七月 十五日生

氏名 永田 弘幸

住所、鹿沼市上石川

一三八三一

奉務先、根裂神社

昭和三十八年 九月 二日生

氏名 久富 真人

住所、日光市山内

二三〇一一

奉務先、日光二荒神社

昭和 四十年 十月 十二日生

氏名 小幡 正之

住所、芳賀郡茂木町

木幡七五〇

奉務先、真岡大前神社

昭和四十二年 十月 六日生



永田弘幸

抱負と申しまでも、この神社界に席を置かせていただきましてから、まだ五年目でございますので、まだまだ右も左も解らずに、

戸部広之

鶯、緑の山々、清らかな川の流れ、桜と梅が同時に見る事が出来る山岳地方特有の古峰ヶ原の春、海拔七百メートルからある、日本武尊を御祭神とする古峰神社に奉職させていただき一年が過ぎ、新に此の春栃木県青年神職むすび会に入会させていただきました。

小生は、岡山県阿哲郡大佐町という所の出身で、実家は村の鎮守様という感じの神社で兄が後を継いでいる。兄の影響を受け神社界に入った。別に特別な世界ではないのだろうか……

岡山の神青には、野球大会か何かで顔を出した程度である。東京神田神社、葛飾にある熊野神社に六年間奉職させていただいた時に、東京都神道青年会事業部に席を置いてはいたが名ばかりで、恥かしい事ではあるが神青協の意味もわからず、会には出席するもののみ出席してただけであった。

只額に「汗しながら」御奉仕させていたでいてまいりました。

この「むすび会」に入会させていただきましたからには、諸先輩方の教えに従いながら、また皆様

少し慣れ体が動く様になったのは東京都神青会の送別会の頃であったか、今思えば何も出来はしなかったが色々な人と出逢え、先輩の方々に御指導していただいた事は大きな財産だと思う。

栃木県青年神職むすび会は、全国では唯一ひらがな名で、「産霊」と通じるのでし



であるというのが第一印象でした。先日会に初めて出席させていた

き、岡山の神青も東京の神青も、また我々むすび会も当り前であるが、神道青年全国協議会であるという事を肌で感じまして、何かうれしく思っていました。「今、何をやるべきか」、「自分に何が出来るか」という事を課

今年の抱負新人

方が御奉仕なさって居ります各御社の運営の方針や、いろいろな面での様子を伺いまして、



神社の発展のさせ方等を勉強させていただきたいと思つて居りますので、今後共御指導の程をよろしく御願致します。

趣味↓一般的によく言う「音楽鑑賞」と「ドライブ」「テニス」「スキー」それに十数年来弾いている「フォークギター」

「その他諸々です。題として、先輩方に恥かしくない様、神社人として、また一社会人として、「むすび会」の一会員として頑張つてやって行きたいと思つて居りますので、よろしく御願致します。

小幡正之

神職として神社に御奉仕はじめてから日も浅く、まだまだ勉強不足で、皆様にも御無礼や致らない点で、ご迷惑等をお掛けするとは存じますが、「むすび会」会員と

久富真人

本年、日光二荒山神社に奉職致しました。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと。

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと。

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること。

を、実践目標と致しましてがんばりたいと思ひます。

まだまだ「浅学非才」の身でございますので、今後の先輩諸兄の御指導御鞭撻の程をよろしく御願ひ申し上げます。

趣味↓「旅行」等。



して、これからの栃木県の神社の為、広くは日本の神社神道の発展の為に努力して行く決意でございますので、どうかよろしく御指導をお願い申し上げます。

趣味↓「スポーツ」「音楽鑑賞」

祝ご結婚

星野 芳典

(乃木神社 権禰宜)

新婦・美佳 (みか)

昭和六十一年 十月 十九日挙式
於・宇都宮二荒山神社

〴〵ほのぼのとした暖かい家庭を築いていきたい。
子供は、二・三人ぐらいが限度かな

昭和六十二年 八月 十一日
長女 「弥寿」(みほぎ) 誕生

斎藤 正洋

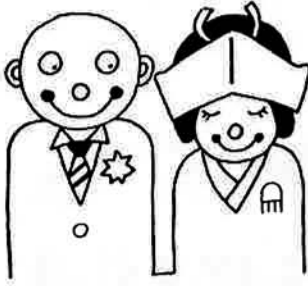
(岩戸別神社 宮司)

新婦・巳代子 (みよこ)

昭和六十二年十一月二十九日挙式
於・宇都宮二荒山神社

〴〵明るく楽しい会話の絶えない生活を送っていきたい。
子供は、世継ぎが出来る迄頑張りたい

昭和六十三年 五月 四日
長女 「千紘」(ちひろ) 誕生



天皇陛下御在位六十年記念



好評

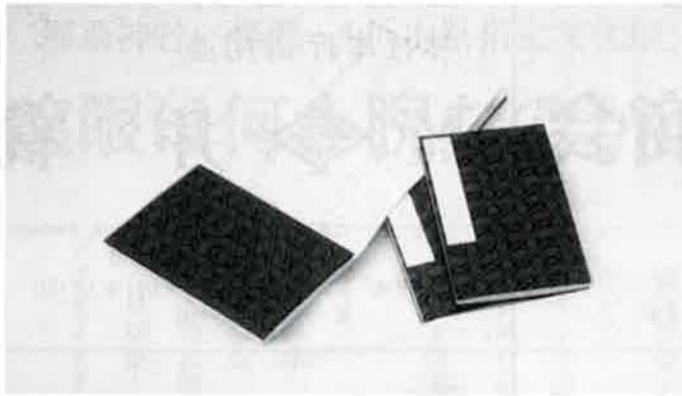
この度むすび会では、天皇陛下御在位六十年を心より御祝申し上げるべく記念事業の一環としまして、県内神社名が一目で解る「県内神社鎮座地一覧」付の御朱印帳を作成致しました。

既に県内神職各位には、御高覧賜り度く一部つつ贈呈申し上げましたが、その後大変好評にて、注文が殺倒致して居ります。

未だ〴〵在庫が御座居ますので、会員各位はもちろんのこと、日々神明奉仕に御活躍中の皆様にも社頭授与品等に広く御活用戴ければ幸甚に存じます。

●定 価——七〇〇円(一部)
(社頭頒布価格——一、〇〇〇円)

※問合せ(申し込み)は、
栃木県神社庁内
堀口 邦夫 迄
宇都宮(二五)―二〇一一



授与品奉製

伊勢の



株式会社 **神路社**

伊勢市岩淵二丁目5番29号(私書函26号)
TEL 0596-24-5858(代表)
FAX 0596-24-5110

創業130年

各種御神符・守札
その他授与品全般

湊御神符奉製所



株式会社 **湊**

(伊勢市神宮会館前(〒516))
電話(0596)22-2442(代表)

山口県都濃郡鹿野町
電話(0836)612001
FAX(0836)612951

(カタログ進呈)

女子道社

おみくじ機
おみくじ販売元

建造物
修理



塗師・絵師
鋳師・箔師

株式
会社

小西美術工芸社

〒321-14 栃木県日光市山内2365
TEL 0288(54)1198(代)
〒108 東京都港区高輪1-5-22
TEL 03(447)1481(代)

神社授与品各種



株式会社 **晃栄商会**

〒321-14
日光市所野1,388
TEL 0288(53)4186

宮内庁・神宮司庁
神社本庁御用達

株式
会社



井筒

本社 京都市下京区油小路通六条北入(〒600)
電(075)341-3341(代)~5番
東京店 東京都新宿区四谷三栄町11-6(〒160)
電(03)357-4800番

各種授与品記念品奉製

金襴錦守・合成樹脂製守・紙札守
木札・金属製守・反射ステッカー
その他御希望に応じ奉製致します

株式会社

三愛工芸

〒310 茨城県水戸市袴塚3-4-2
電話 水戸(0292)51-2051(代)
FAX 水戸(0292)53-5844

御守・御札奉製

東洋工芸

〒321
宇都宮市石井町2551-6
TEL 0286(62)0043